

事業報告書

第 18 期 (2019 年度)

自 2019 年 4 月 1 日

至 2020 年 3 月 31 日

京都市中京区六角通新町西入西六角町 101 番地

認定特定非営利活動法人 リボーン・京都

第18期（2019年度）事業報告

認定特定非営利活動法人リボン・京都
理事長 小玉 昌代

2019年2月14日に日本外務省N連より「ラオス国サバナケート県立職業訓練校セポン分校での洋裁技術指導普及事業」が認可され、ラオスの日本大使館で調印式が行われました。現地に派遣するプロジェクトマネージャーの仲亀奈保子、洋裁専門家の川崎チイ、ミシンの組み立て、メンテナンスの中井隆と洋裁専門家責任者の中島茂代、現地責任者のフンペン・メカシンと理事長の小玉昌代6名が出席しました。ビエンチャンで事務的な手続きをして後、事業地のサバナケートに移動しました。サバナケート職業訓練校本校の責任者のボンサバン・ビエンマニー校長先生は新学期にはサバナケート県の公務員の移動で変わられることを初めて知りました。本校では2007年～2010年洋裁科を立ち上げて、洋裁技術指導をし、その後フォローアップとフェアトレード事業を現在まで続けています。初期のころの訓練生が4名先生になり活躍しています。セポン分校にも1名派遣されています。最初は20名足らずの訓練生が、発展して100名以上になっていました。本校と分校の教材をすでに日本から送り、サバナケートの郵便局に着いていましたが、税金のことで、ラオスの文部省と郵便局が話し合っているとのことで配達されず、私たちは、事業地のセポン分校に移動しました。日本から送った教材は後に本校からセポン分校に送られました。

ミシンやアイロン、教材の一部の布地等サバナケートの店で予約をして、入金出来たときに配達されるよう手配をしました。

セポン分校は本校から200km離れた山岳地帯にあります。ベトナム戦争の終わり頃にこの地方にアメリカの爆弾が落とされ、今も不発弾や地雷があり、その除去に他国のNGOが活動していました。

事業地のセポン分校は以前は森林研究所で、その跡地にあり、安全で自然豊かな恵まれたところにあります。校舎は現在古い建物ですが新校舎が建つそうです。訓練生は山岳地帯の女性できらきらした目で意欲的に学んでいました。40人ぐらいの訓練生のクラスが3学年あり、3年生はインターン制度でセポン地方の洋裁店で実習をしています。川崎先生は1年生と2年生を指導することになりました。

中井さんはすでに訓練生が使用しているミシンや故障しているミシンをすべて修理して、生徒たちにも修理の仕方を教えました。本校を訪れている間もすべてのミシンのメンテナンスをして、毎日使用するミシンを大切に使うことを訓練生に教えていただきました。

仲亀さんと川崎先生を残して中井、中島、小玉は2月末帰国しましたが、3月下旬新型コロナウイルス感染症の影響で1か月余りの支援でしたが、やむなく、2人は一時帰国して、状況が良く成り次第ラオスにもどり、事業を再開できるよう準備をしています。毎週月曜に事務局と東京と新潟を結びテレワークを実施しています。またラオスとも度々連絡を取っています。当会のボランティア活動は5月末まで中止しています。

ルワンダのデオ君とも連絡を取りフェアトレード事業を再開の予定です。

5月中旬より表地—浴衣地、裏地—晒地のマスクを当会のボランティア有志によって作成販売を開始し成果をあげています。

今年度はホームページを充実したものにする予定です。そして寄付金が増加するよう努力したいと思います。

皆様のご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。

I. 事業の実施に関する事項

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 洋裁指導事業

① 洋裁指導事業

実施期間	2020年2月14日～2021年2月13日		
実施場所	ラオス国サバナケート県 県立職業訓練校本校及びセポン分校洋裁科		
対象者	本校及びセポン分校の校長、教師、洋裁科の生徒		
従事者人数	事業従事者4名（国内2名、現地スタッフ2名）		
助成金額	4,653,139円	助成元	日本NGO連携無償資金協力
支出額	5,888,788円		
事業内容	サバナケート県立職業訓練校のセポン分校にて、初等教育卒業程度の生徒に対して、日本から洋裁専門家やミシン修理の専門家を派遣し、洋裁技術教育、ミシンの組立・メンテナンス技術訓練を行う。また、出張ワークショップによる周辺住民への洋裁技術指導により、職業訓練校に通学できない人々に対しても技術支援を行う。		
成果	2020年2月14日に在ラオス日本国大使館で日本NGO連携無償資金協力の贈与契約が締結され、理事長小玉をはじめプロジェクトマネージャー仲亀、洋裁専門家中島、川崎らが調印式に参加しプロジェクトが開始された。セポン分校では日本から送付した資機材を用いて3月2日に川崎が授業を開始し、基礎縫い、針山製作を終え、浴衣ブラウスの製作に入った。また本校では、2月18日、24日、25日に、中島が生徒が製作した作品を教材としてフォローアップ指導を行った。しかし、3月に入ると新型コロナウイルス感染が世界中に拡大し、セポン分校が閉鎖されて生徒への指導ができなくなったため、駐在者2名は3月28日に日本に帰国した。その後はメールや電話で現地関係者と連絡をとり再開にむけて計画を再検討している。		

② 環境保全活動事業（洋裁指導教材として活用）

実施期間	2020年1月～2月期間限定		
実施場所	リボン・京都 日本事務局（G&Gビル 久保方5F）		
対象者	日本全国の着物保有者		
従事者人数	国内作業従事者5名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	120,000円（保管料）		
事業内容	不要になった古着物の寄贈を募ることで、廃棄の際に輩出されるCO2軽減に貢献し、環境に配慮する。寄贈された着物は、種類別に仕分け保管し、必要に応じて選び出し、海外事業地での洋裁指導教材として活用。		

成果	<p>会誌、新聞、ウェブサイトを通じて古着物の寄贈を呼びかけ、全国から多くの着物が届いた。保管場所不足の為、今年も受付期間（1月と2月）を設けた。着物保管料として3,000円（段ボール1箱につき）の寄付をお願いした。寄付をされた方々へ御礼状送付時に当会パンフレットと会誌を同封することで当会の活動を紹介した。</p> <p>期間内で94件、年間通して105件、合計1,278点の着物および小物が寄贈された。</p>																												
	<p><2019年度 着物寄贈状況> ()内は前年比較の数字 寄付者述べ人数：109名</p> <table border="1"> <tr> <td>○着物</td> <td>323点 (-68)</td> <td>○喪服</td> <td>41点 (-7)</td> </tr> <tr> <td>○夏着物(浴衣含む)</td> <td>53点 (+11)</td> <td>○喪服帯</td> <td>21点 (-27)</td> </tr> <tr> <td>○羽織</td> <td>175点 (+16)</td> <td>○男物</td> <td>61点 (+18)</td> </tr> <tr> <td>○帯</td> <td>249点 (+13)</td> <td>○子供</td> <td>21点 (+9)</td> </tr> <tr> <td>○襦袢</td> <td>54点 (-5)</td> <td>○その他(反物含む)</td> <td>189点 (-55)</td> </tr> <tr> <td>○コート</td> <td>91点 (+8)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>合計</td> <td>1,278点 (-87)</td> </tr> </table>		○着物	323点 (-68)	○喪服	41点 (-7)	○夏着物(浴衣含む)	53点 (+11)	○喪服帯	21点 (-27)	○羽織	175点 (+16)	○男物	61点 (+18)	○帯	249点 (+13)	○子供	21点 (+9)	○襦袢	54点 (-5)	○その他(反物含む)	189点 (-55)	○コート	91点 (+8)					合計
○着物	323点 (-68)	○喪服	41点 (-7)																										
○夏着物(浴衣含む)	53点 (+11)	○喪服帯	21点 (-27)																										
○羽織	175点 (+16)	○男物	61点 (+18)																										
○帯	249点 (+13)	○子供	21点 (+9)																										
○襦袢	54点 (-5)	○その他(反物含む)	189点 (-55)																										
○コート	91点 (+8)																												
		合計	1,278点 (-87)																										

(2) フェアトレード事業

① ルワンダ訓練修了生有志グループとのフェアトレード事業とフォローアップトレーニング

実施期間	2019年11月（直しを依頼した作品の納品）		
実施場所	ルワンダ共和国キガリ市 ガチュリロ職業訓練センター		
対象者	同校洋裁科修了生2名		
従事者人数	事業従事者3名 国内作業従事者27名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	151,690円		
事業内容	当会の洋裁技術訓練修了者が、習得した技術を維持・向上させ、安定した収入を得られるよう、当会より材料を送り、洋服や小物の仕立てを注文し、完成品には適正対価を払い、収入向上を図る。		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 材料を準備・送付し、製作依頼をする。完成品に仕立て代を払う。 ▪ 完成作品に対して評価を行う。 ▪ フォローアップ指導を行う。 		
成果	キガリ市立ガチュリロ職業訓練校の修了生2名と2018年度より行っているフェアトレードを完了させた。パターンや指示書、着物地等の必要材料を当会で準備・送付して製作を依頼し、返送されてきた完成作品に対して洋裁指導責任者の評価を行って、その結果をフィードバックすると同時に評価に応じて仕立て金を支払った。		

	<p>2019年1月に発注した作品が4月に納品され、これまで同様、洋裁指導責任者の中島茂代が評価と点数化を行ったが結果は芳しくなく、ルワンダに送り返して縫製し直すことになった。その後、11月に作品が再び送られてきたが結果はそれほど改善していなかった。納品されたのは、着物ブルゾンや半袖ワンピースなど洋服3種類28着。今後、作品の品質改善策について検討する必要がある。</p> <p>また、2018年度に修了生より提案があったギテンゲバッグについても、2019年度は対応できなかったため、引き続きデザインや販路を考慮し商品化について検討する必要がある。</p>
--	---

② ラオス・サバナケート県立職業訓練校とのフェアトレード事業とフォローアップトレーニング

実施期間	2019年11月（教材発送）2月（一部納品）		
実施場所	ラオス国サバナケート県 県立職業訓練校洋裁科		
対象者	同校洋裁科の生徒53名、修了生4名		
従事者人数	事業従事者3名 国内作業従事者27名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	244,418円		
事業内容	<p>当会の洋裁技術訓練修了者および現地教員が、習得した技術を維持・向上させ、安定した収入を得られるよう、当会より材料を送り、洋服や小物の仕立てを注文し、完成品には適正対価を払い、彼らの収入向上を図る。</p>		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 材料を準備・送付し、製作依頼をする。完成品に仕立て代を払う。 ▪ 完成作品に対して評価を行う。 ▪ フォローアップ指導を行う。 		
成果	<p>2007年 外務省日本 NGO 連携無償資金協力を受け、サバナケート県立職業技術訓練校に洋裁科を設立。3年に渡り同校で洋裁技術指導事業を実施し2010年1月に事業を終了した。その後も訓練生らが習得した洋裁技術の維持向上のため、同校とフェアトレード形式の指導を継続しており、本年度も実施した。</p> <p>パターンや指示書、着物地等の必要材料を当会で準備・送付して製作を依頼し、返送されてきた完成作品に対して洋裁指導責任者の評価を行って、その結果をフィードバックすると同時に評価に応じて仕立て金を支払った。京都在住のラオス人、内藤ケンペット氏に通訳・翻訳を依頼しラオス語を使って現地の職業訓練所に指示、電話連絡をしている。</p> <p>11月に依頼したのは、ワンピースやコートなど洋服7種類65着、小物2種類200個。そのうち6種類42着、および小物61個は2月に納品され、3月に洋裁専門家の中島茂代によって評価が行われた。残りの作品について現地に確認しているが、新型コロナウイルス感染拡大のために国際郵便の受付が停止しており納品時期は未定。しかし、引き続き状況を注視しできるだけ早く納品できるように努める。</p>		

③ 東日本大震災被災者とのフェアトレード事業

実施期間	2019年4月、9月、2月（教材送付）
実施場所	宮城県仙台市
対象者	東日本大震災の影響で京都に避難していた（が、その後帰郷した）被災者1名

従事者人数	事業従事者 3 名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	82,213 円		
事業内容	当会の洋裁技術訓練修了者が、習得した技術を維持・向上させ、安定した収入を得られるよう、洋服や小物の仕立てを注文し、完成品には適正対価を払い、彼女らの収入向上を図る。		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 材料を準備・送付し、製作依頼する。完成品に仕立て代を払う。 		
成果	<p>2013 年～2015 年まで東日本大震災の影響で京都に避難していた被災者を対象とした洋裁ワークショップを実施したが、その参加者で現在は東北地方に帰郷している方 1 名に仕立てを依頼するフェアトレード形式の支援活動を行っている。</p> <p>4 月に依頼したのは、アンサンブル 1 着、コート 1 着、11 月にはワンピース、2 月にはブラウス 2 着、ライトコート 2 着。これらの作品はパリで販売される。</p>		

④ バザー事業

実施期間	通年 ※下記参照		
実施場所	※下記参照		
対象者	当会支援者および一般消費者		
従事者人数	国内作業従事者 33 名		
助成金額	-	助成元	-
収入額	2,614,672 円		
事業内容	<p>海外現地の洋裁訓練生や訓練修了生が製作した洋服や小物等をチャリティ展示即売会、バザー出店、ネット販売などの形式で販売し、市場で技術習得の成果を問う。収益は訓練生の奨励金など活動資金に充当する。購買層や売れ筋商品、お客様の声などを参考にした商品開発を心掛け、体型をカバーしたり着心地が楽な緩やかなシルエットの商品を、洋裁責任者の中島茂代を中心に、ファッション雑誌や他ブランドの商品を参考にしながら考案した。</p>		
成果	<p>京都錦市場近くのローカル・カフェ ABCafe (4 月) や阪急うめだ本店 (5 月) など各種イベントでチャリティ展示即売会を実施した。三田村店での販売は祇園祭りセール、クリスマスセールともに前年度と比較して売上が増加した。売上内容については、年間を通して、昨年度同様、着物・帯の売上に占める割合が多かった。</p> <p>3 月は新型コロナウイルス感染拡大防止のためにボランティア活動とともに三田村店の販売活動も休止した。その他の販売活動も行うことができなかったため 3 月の販売事業の収入は全くなかった。</p> <p>売上総額：2,614,672 円 (主な内訳は以下の通り)</p>		

<主な売上内訳>

日程	チャリティバザー		バザー以外	
4 月	ABCafe	386,951 円	三田村店(通期)	813,550 円
5 月	阪急うめだ	260,208 円	三田村店(祇園祭りセール)	507,550 円
11 月	リノベーションエキスポ	21,100 円	三田村店(クリスマスセール)	132,400 円

11月	近江のおもてなし	(2,200円)※ その他の事業	瓢樹(通期)	26,136円
11月	地域力アップおうえん フェア	1,300円	由凜(通期)	21,489円
2月	パシイワ愛知	142,100円	パリ(通期)	32,706円
2月	はたらく女性フェスタ	18,300円	ボストン(通期)	124,322円
			ウェブ販売(通期)	4,160円
			その他(通期)	122,700円

(3) 啓発及び広報事業

① 人材育成事業

実施期間	通年		
実施場所	リボーン・京都 日本事務局		
対象者	1名		
従事者人数	事業従事者5名(国内)		
助成金額	-	助成元	-
支出額	48,334円		
事業内容	2018年度から引き続き近畿大学文芸学部文化デザイン学科4年の脇広奈をインターンとして採用した。		
成果	<p>年2回の会誌作成など広報業務を中心に活動した。また、昨年度ラオス視察に同行したことをふまえ、ラオスでの新事業を日本NGO連携無償資金協力として申請する際の資料作成などにも携わった。</p> <p>大学では卒業制作として「1NPO法人から見る非営利活動法人の課題と今後」と題した論文を作成し、インターンの経験をもとにリボーン・京都が抱える問題点を整理し、その解決方法としてクラウドファンディングを提案した。</p> <p>2018年度に指導教員の近畿大学の西野教授とリボーン・京都が面談し、インターンについて相談したところデザインコンペを行う等の話が出ていたが実現はしなかった。今後、検討を継続していきたい。</p>		

② 広報支援事業

実施期間	2019年4月～2020年3月		
実施場所	リボーン・京都 日本事務局他		
対象者	当会支援者および一般市民		
従事者人数	事業担当者2名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	-		
事業内容	<p>HPやFacebookを利用したイベント発信にはあまり時間をかけることはできなかったが、必要最低限で継続し、2019年度末の当会のページの「いいね!」数が559名から583名に増加するなどわずかながら成果はあった。(2019年3月31日現在)</p> <p>昨年度再開したオンラインショップは売上が上がらず、管理する人材不足のため再度閉鎖している。今後オンラインショップでの販売を再開するためには、業務を効率化する、適切な人材を確保するなど計画を立て</p>		

	て行う必要がある。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のために対面での販売活動ができない状況にある中、代替的な販売経路として早急に対応する必要がある。
--	--

③ 啓発事業

7月に公益財団法人社会貢献支援財団より表彰を受けたことを記念して、9月に祝賀会を開催した。ボランティアをはじめとした35名が参加し、長年当会を支え続けてきた方々と交流の場を持った。

また1月には大阪府立東淀川高等学校3年生にむけて事務局マネージャーのアシュリー真紀がフェアトレード事業についての出前授業を行い、若年層に活動をアピールする良い機会となった。

日程	内容	主催
5/26	京都チャリティ・ファンラン	京都チャリティ・ファンラン実行委員会
9/3	祝賀会	認定特定非営利活動法人リボン・京都
11/23	ファッションショーにて事業紹介	近江のおもてなし実行委員会
1/16	総合学習の出前授業	大阪府立東淀川高等学校

④ その他啓発・広報事業（京都チャリティ・ファンラン、支援者対応含む）

実施期間	通年
実施場所	京都府京都市 宝ヶ池公園いこいの森
事業内容	チャリティを目的とした一般の方対象のマラソン大会の運営を NICCO 他 NGO 団体と共に行い、当会事業活動により理解を深めてもらえるよう展示を行った。
成果	例年通りの京都チャリティ・ファンランに加え、大学生や一般の方との対面による交流会や講演の機会を多くいただくこととなり、新たな支援者拡大につながっている。 2019年5月26日(日) 京都チャリティ・ファンラン 参加者数 545名 「第33回京都チャリティ・ファンラン」に参加。実行委員長 久保氏より 300,000 円の寄付金をいただいた。

2. その他の事業（三田村店での販売額を含む）

	2017年度	2018年度	2019年度
仕入商品売上	252,864円	202,600円	262,770円
お仕立て	92,000円	55,000円	45,000円
合計	344,864円	257,600円	307,770円

II. 会務報告

1. 会員状況（2020年3月31日現在）

	2017年度	2018年度	2019年度
正会員	50名	48名	47名
賛助会員	78名	72名	61名
ボランティア会員	9名	10名	13名

2. 役員状況 (2019年3月31日現在)

	氏名	常勤／ 非常勤	現職・所属	任期
理事長	小玉昌代	常勤	(特活)リボーン・京都 理事長 (社)日本国際民間協力会 理事	2019年6月1日～2021年5月31日
理事	中島茂代	常勤	(特活)リボーン・京都 洋裁指導責任者	2019年6月1日～2021年5月31日
理事	小野了代	非常勤	(社)日本国際民間協力会 理事長	2019年6月1日～2021年5月31日
理事	渋谷みち子	非常勤		2019年6月1日～2021年5月31日
理事	白井幸則	非常勤	エールコーポレーション株式会社 代表取締役	2019年6月1日～2021年5月31日
理事	奥谷充代	非常勤		2019年6月1日～2021年5月31日
理事	宇野ひと美	非常勤		2019年7月23日～2021年5月31日
監事	山元直貴	非常勤	公認会計士	2019年6月1日～2021年5月31日

3. 職員状況 (2020年3月31日現在)

理事長以外に以下の職員がおります。

	有給専従職員	有給非専従職員	インターン	無給専従職員
国内	2名	1名	1名	1名
海外	3名	0名	0名	0名

海外有給専従職員3名のうち、1名はラオス現地職員

4. 総会および理事会

<総会>

2019年度 通常総会

- 日時： 2019年6月4日（火）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 会議室
- 出席者： 37名（内26名は委任状出席）
- 審議事項： ① 2018年度 事業報告・会務報告 承認の件
② 2018年度 決算書類 承認の件
③ 2019年度 任期満了に伴う役員専任の件
④ 今年度の活動予定

<理事会>

2019年度 第1回理事会

- 日時： 2019年5月29日（水）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事7名
監事1名
- 審議事項： ① 2018年度 事業報告・会務報告 承認の件
② 2018年度 決算書類 承認の件
③ 2019年度 通常総会開催 承認の件
④ 2019年度 任期満了に伴う役員選任の件
- 報告事項： 今年度の活動予定

2018年度 第2回理事会（臨時理事会）

- 日時： 2018年8月21日（月）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事7名、監事1名
- 審議事項： 定款変更及びその決議のための総会招集の件

2018年度 第3回理事会

- 日時： 2019年3月19日（木）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事5名
監事1名
委任状出席1名
- 審議事項： ① 2020年度 事業計画
② 2020年度 予算案
- 報告事項： 2019年度事業状況と決算見込み

5. 会誌発行

「News! 甦 vol. 33」 発行：2019年7月9日

- 内容：
- 町家でチャリティーバザーが開催されました（小玉理事長）
 - 途上国への洋裁指導（洋裁専門家中島茂代先生）
 - HOPE JOURNEY INTERNATIONAL2018 Ms HOPE Elitelst Princess 受賞（ボランティア福村順子さん）
 - 京都大学でワークショップを行いました
 - 23年間、ボランティアを続ける浅田さんにインタビューしました
 - 祇園祭セールのご案内
 - チャリティーバザーの売上ご報告（2018年12月～2019年5月）
 - 第17期（2018年度）活動計算書

「News! 甦 vol. 34」 発行：2019年12月10日

- 内容：
- 洋裁技術指導が途上国の女性や若者の自立に役立つように（小玉理事長）
 - ラオスフェアトレード事業で思うこと（洋裁専門家中島茂代先生）
 - 社会貢献支援財団から表彰していただきました
 - ラオスのプロジェクトが始まります
 - ボランティア石崎さんにインタビュー
 - チャリティーバザーの売上ご報告（2019年7月～2019年11月）
 - 三田村店クリスマスセールのお知らせ
 - 着物のご寄贈を受付開始します！

以上